

日本油化学会第54回年会での油化学会専門部会主催シンポジウム

○界面科学部会シンポジウム

化粧品、医薬品、食品分野における界面科学の役割

日時：9月8日（火）13:30～16:30

会場：名城大学天白キャンパス B会場&C会場（N321&N322室）

プログラム（案）

13:30～13:40 界面科学部会長（代理）挨拶

13:40～14:30 講演① 山形大学大学院理工学研究科 野々村 美宗氏

14:30～15:20 講演② 日本メナード化粧品株式会社 浅野 浩志氏

15:20～15:30 休憩／時間調整

15:30～16:20 講演③ 香川大学農学部 合谷 祥一氏

16:20～ 閉会挨拶

○オレオマテリアル部会シンポジウム

日時：9月8日（火）調整中

会場：名城大学天白キャンパス D会場（N323室）

講演：未定

○油脂産業技術部会・オレオライフサイエンス部会 合同シンポジウム

脂質分析におけるキラルHPLC技術の発展

日時：9月9日（水）（年会会期2日目） 9:00～11:55

会場：名城大学天白キャンパス D会場（N323室）

近年、クロマトグラフィー技術の進展は目覚ましく、特にキラルカラムは様々なタイプの固定相が開発され、昨年の年会においても、リン脂質、トリアシルグリセロール光学異性体の直接分離が報告されています。本シンポジウムは、キラルHPLCの基礎、脂質分析、産業上のキラル化合物の応用例について、この分野の第一人者である3名の講師より、最新の話題をご紹介いただき、参加者の皆様とその知見を共有する場としたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

開会（9:00）

1. 多糖系キラル固定相による光学異性体分離～その驚異のキラル分離能力と分離成功のノウハウ～

（9:05～9:55）

株式会社ダイセル CPIカンパニー ライフサイエンス開発センター センター長 大西 敦氏

かつて光学異性体は分離困難と認識されていたが、優れたキラル分離能力を有するカラムが開発され 状況は一変した。本講演では特に高い確率で光学分割に成功する液クロ用多糖系キラルカラムの最近の状況を報告する。

2. 脂質分析におけるキラルHPLCの役割と最近の進歩

（10:00～10:50）

北海道大学名誉教授 板橋 豊氏

グリセロ脂質のキラル分析は脂質の代謝（消化・吸収・再合成）や機能を研究する上で不可欠である 本講演ではキラル分析に多用されるキラルHPLCの脂質分析における役割、最近の進歩と実際、今後の課題について紹介したい。

3. 超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）を用いた香料化合物の光学分割と赤外円二色性（VCD）を利用した絶対立体配置の決定

（10:55～11:45）

高砂香料工業(株)研究開発本部 分析研究所 分析技術部 部長 矢口 善博氏

弊社の不斉合成技術を用いた光学活性香料、および超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）を用いた香料物質の光学分割、単離精製された光学活性体の絶対配置決定についていくつかの例を挙げてご紹介する。

質疑応答（11:45～11:55）

閉会（11:55）

○オレオナノサイエンス部会シンポジウム
- ナノドラッグデリバリー技術の開発と展望 -

日時：9月10日（木）（年会最終日） 9：00～12：30（予定）

会場：名城大学天白キャンパス B会場（N321室）

講演：名城大学薬学部 岡本 浩一氏 他数名の先生方による招待講演

※食品油脂機能構造部会による開催はありません。

○洗浄・洗剤部会ランチョンシンポジウム

日時：9月8日（火）12：00～13：30

会場：名城大学天白キャンパス E会場（N324室）

講演：多糖類系廃棄物の界面活性剤への資源化

（名工大院・工）○吉野 明広先生・（名古屋市工研）村瀬 由明氏

多糖類はバイオ燃料へと転換される。これを糖化の後エステルに転化すれば、より低炭素かつ効率的な回収が可能である。震災後の新たな枠組みの下、界面活性剤への資源化の将来性と実現性についてご討論願いたい。

○オレオナノサイエンス部会ランチョンシンポジウム

日時：9月9日（水）12：00～13：30

会場：名城大学天白キャンパス B会場（N321室）

講演：イオントフォレシスを目的とした経皮投与用ナノ粒子の製剤設計

興和株式会社 富士研究所 DDSグループ 鈴木 健一氏

イオントフォレシスは、電気エネルギーを印加し、能動的に薬物を経皮吸収させる方法です。これを利用した製剤化研究の概要とイオントフォレシスに適した薬物送達キャリアの新規調製法について発表させていただきます。